

様式

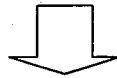
担当課

教育総務課

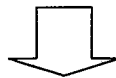
シート No. 1

重点目標及び主な事業	現職教育、特色ある学校、確かな学力をはぐくみ個性を生かす教育活動
	現職教育協議会、初任者研修、授業研究、生徒指導研修会、副読本「ながくて」編集会、少人数指導 など

課題・問題点	・授業等の質的な改善を図るため、引き続き指導のあり方を研究していく必要性。 ・急増している若手教員の授業力向上のため、授業実践、研究協議を積み重ね、実践力を身につけさせる必要性。 ・子どもたちが、将来に向けて自己決定する力や態度を育むためのキャリア教育充実の必要性。
--------	---



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	各部会での検討、情報交換⇒年 1 回～11 回
	夏期研修会の実施⇒それぞれの内容の異なる研修を 7 回
	2、3 年目の少経験者の授業研究の実施⇒小中各 1 回
	2 年間の研究委嘱の発表⇒2 名の研究発表
	キャリア教育の充実のための職場体験学習、働く人に学ぶ会の実施⇒職場体験 3 日、働く人に学ぶ会 1 回
	初任者、10 年経験者の社会体験学習（老人養護施設での研修）⇒初任者 2 日、10 年経験者 3 日



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	夏期研修会の充実⇒授業法の研修を取り入れる
	○ 2・3 年目の少経験者の授業研修を日進市、東郷町と合同で実施し、その後の 4・5 年目の教員を対象とした研修を実施する。
	研究発表を 2 名から 3 名に。

重点目標及び主な事業	開かれた学校、信頼される学校
	P T A活動、授業公開、地域ボランティアとの連携、地域ぐるみ学校安全体制整備 など

課題・問題点	・学校の教育計画、教育活動等の発信や現状説明。 ・PTA 役員、保護者、地域、学校の連携を密にする必要性。 ・P T Aや保護者に対し「親」ではなく「地域の大人」としての社会的立場で学校と結びつくような働きかけ。
--------	--



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・学校、学年だより等の通信 ⇒学期 1 回
		・PTA 総会・授業参観・文化祭・体育祭等の学校行事 ⇒年度 1 回
		・PTA 懇談⇒学期 1 回
		・地域意見交換⇒半年 1 回
		・PTA や保護者、地域の方との登下校・地域活動等での見守りや声かけ、講師依頼などの協力依頼文書の発行 ⇒年度 1 回
	○	・PTA や地域の方との連携による通学路安全総点検 ⇒ 各小学校区年度 1～10 回
	○	・市が洞小増築・校区再編に伴う PTA、地域住民への意見聴取 ⇒PTA、地域住民への文書配布(3,300 枚)



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		・学校、学年だより等の通信 ⇒ 学期 1 回
		・PTA 総会・授業参観等の学校行事 ⇒総会・授業参観/年度 1 回
	○	⇒市が洞小運動会/愛知淑徳大学との連携
	○	・PTA だより⇒4 ページ増
		・通学路安全点検 ⇒ 各小学校区年度 1～10 回
	○	・市が洞小校区再編にかかる PTA、地域住民との検討 ⇒ 学校適正化検討委員会を通じての会議、意見交換会の開催 (年度 3～6 回)

重点目標及び主な事業	心の居場所となる学校、生きる力をはぐくむ教育活動
	現職教育研修事業、心の教室相談員、適応指導教室心理カウンセラー、スーパーバイザーの配置、適応指導教室学習会の開催、臨床心理士巡回相談

課題・問題点	・自己を生かし、個性や能力を発揮するための指導、支援のあり方について、教職員が専門的な知識や技術を習得。 ・事例研究等の研修を重ねながら、関係機関、専門家との連携を深め、適切な指導、支援にあたる態勢の構築。 ・児童生徒の課題に合う専門的経験と知識をもつ講師の不足。 ・いじめ・自殺の問題も含め、さらに専門家との連携の下、継続して取り組む必要性。
--------	---



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		現職教育夏期研修会で児童の安全意識を高める指導力向上のため CAP プログラムの研修を実施 ⇒1 回
		現職教育夏期研修会で生きる力を育むための総合的な学習の指導に役立つ研修実施 ⇒3 回
		N ハウスあいの自主学習での事例研修会の実施 ⇒9 回



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		現職教育事業において「生きる力」を養う指導を増やす ⇒2 回

重点目標及び主な事業	一人一人を見つめて育てる特別支援教育の推進、いじめ・不登校・暴力行為などの問題行動への対応
	就学指導委員会、特別支援学級の設置、通級指導教室の設置、就学相談や体験入学の実施、特別支援教育就学奨励費等の補助、院内学級の設置、適応指導教室の設置

課題・問題点	・特別支援教育コーディネーターを中心に校内体制の整備。専門家や関係機関と連携しながら指導や対応について研修を深める必要性。 ・携帯電話やインターネットによるトラブルやいじめ、犯罪等に関する情報モラル教育を進める必要性。
--------	--



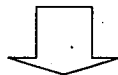
H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	特別支援学級、通級指導教室の実施 ⇒特別支援学級 小 14 学級 中 3 学級 通級指導教室 2 学級
	適正就学を目指しての就学指導委員会の実施⇒2 回
	適正就学を目指し配慮事項を確認するための就学相談⇒15 回
	配慮を必要とした児童生徒の指導のための学級指導補助員の配置⇒16 名
	体験入学⇒16 回



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○ 特別支援学級の増設⇒小 14 学級 中 5 学級
	県派遣の特別支援の研修の実施⇒
	学級指導補助員の増員⇒18 名

重点目標及び主な事業	人権教育への対応、今日的課題への対応
	命を大切にする教育推進事業、心の教育推進活動、子育て支援課、児童相談所など関係機関との連携

課題・問題点	・人権教育は、学校、保護者、地域及び関係諸機関との連携が必要。 ・虐待に対して、学校・教育委員会の関わり方が難しく、保護者に対する対応に苦慮している。また、個人情報に配慮し、児童相談所等、関係機関との協力体制整備が必要。
--------	---



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		社会福祉協議会と連携して障害を持つ方を講師とした福祉実践教室の実施 ⇒各校年 1 回
		地域連携実務者会議等での連携や情報交換を図る ⇒年 8 回
		虐待等が疑われる場合は関係機関、教育委員会、学校でケース検討会議を実施



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○	関係機関との連携強化を校長会、教頭会をはじめとする各部会で呼びかける
		虐待の早期発見のため、疑われる場合の連絡依頼を校長会で実施する

重点目標及び主な事業	学校施設環境の充実
	トイレ改修事業、非構造部材耐震化事業、建物改修事業

課題・問題点	・開校から数十年を経過した学校もあり、校舎等の老朽化が著しい部分についての検討の必要性。 ・児童・生徒や保護者からトイレの臭いについての苦情もあるため、施設の衛生的観点からも、排水管等を含めた大規模な修繕の検討に着手する必要。
--------	--



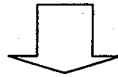
H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	○	・トイレ改修工事設計の実施 ⇒長小・西小・東小・長中トイレの洋式化及び全面改修
	○	・トイレ改修設計意見交換会の開催 (長小・西小・東小・長中の PTA と教職) ⇒1 回
	○	・トイレ改修設計保護者アンケート調査の実施 (長小・西小・東小・長中) ⇒1 回
	○	・東小学校水道管布設替工事の実施
	○	・南中学校体育館屋根改修工事の実施



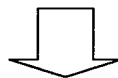
H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○	・トイレ改修工事の実施 (長小・西小・東小・長中)
	○	・トイレ改修工事設計の実施 ⇒北小・南小・南中トイレの洋式化及び全面改修
	○	・トイレ改修設計保護者アンケート調査の実施 (北小・南小・南中) ⇒1 回
	○	・体育館非構造部材耐震化調査設計の実施 (長小・西小・東小・長中)
	○	・建物改修調査計画の実施 (長小・西小・東小・北小・南小・長中・南中)

重点目標及び主な事業	平成こども塾事業
	小学生が総合学習の授業として来所する学校連携プログラム、平成こども塾自主プログラム、サポーター（ボランティア）プログラム、専門プログラム など

課題・問題点	・プログラムの増加に伴う開催日程の調整、計画変更時の代替手段の確立。 ・学校や地域の行事等を把握した上での、適切なプログラム時期選定。
--------	--



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	小学校連携プログラムの実施 ⇒57回実施、1,855人参加
	平成こども塾自主プログラムの実施 ⇒14回実施、247人参加
	サポータープログラムの実施 ⇒105回実施、2,131人参加
	専門プログラムの実施 ⇒12回実施、398人参加
	広報誌「かわら版」の通信 ⇒月1回、希望者に送付
	○ 運営委員の改選、マスタープラン基本理念の改訂



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	小学校連携プログラムの実施 ⇒57回実施
	平成こども塾自主プログラムの実施 ⇒8回実施
	サポータープログラムの実施 ⇒98回実施
	専門プログラムの実施 ⇒18回実施
	○ こども塾だよりの通信 ⇒月1回、希望者に送付、市内小学校の児童に配付

重点目標及び主な事業	学校施設整備の充実
	新設中学校の整備、市が洞小学校と東小学校の校舎増築の整備、

課題・問題点	・区画整理事業や民間開発、大型マンションに伴う増加する児童・生徒に対応するために必要な校舎増築の規模と実施時期を検討する必要。
--------	---



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	☐	・新設北中学校の竣工 ⇒平成 25 年 3 月 10 日竣工式
	☐	・新設北中学校植樹祭の実施 ⇒地域住民主体の実行委員会を 3 回開催。約 600 人の地域住民と植樹ボランティアが参加。
	☐	・市が洞小学校校舎増築に関する住民説明会の開催 ⇒住民説明 2 回、意見聴取 1 回、工事説明 1 回。
	☐	・市が洞小学校校舎増築工事の実施 ⇒平成 26 年 3 月末竣工に向けて着工。



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		・市が洞小学校校舎増築工事の実施 ⇒平成 26 年 3 月末竣工予定。
	☐	・東小学校校舎増築設計の実施
	☐	・東小学校校舎増築に関する住民説明会の開催 ⇒住民説明 1 回

重点目標及び主な事業	生涯学習への関心を高め、学習意欲を持つきっかけとなる各種講座や教えること、学ぶことをそれぞれの立場で学ぶ、「ながくて・学び・アイ講座」の開講のほか、学ぶ意欲のある人と知識・技能を持つ人との橋渡しの役となる学習情報の充実に努める。
	各種講座の開講及び学ぶ意欲にあふれた人と知識・技能を持つ人との橋渡しとなる「生涯学習講師人材バンクリスト」の作成並びに市が開催する講座や社会教育関係団体の紹介をする「生涯学習講座ガイド」の作成・配布。

課題・問題点	「ながくて・学び・アイ講座」は、平成 20 年度から実施している。 本講座の趣旨により、講座運営について、さらに参加しやすくなるよう仕組みの改善をはかる必要がある。
--------	---



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	公民館講座⇒年間 35 講座（一般 10 講座、学び・アイ・講座 23 講座、大学連携 2 講座） ながくて・学び・アイ講座は講座成立率 51%
	○ 生涯学習講座ガイド⇒年 2 回、各 1,500 部作成 写真を多く使用し、見易い冊子を作成した。
	俳句大会⇒ 年 2 回開催 前期 230 句 後期 310 句
	生涯学習講師人材バンクリスト⇒登録人数 122 人から 142 人、登録件数 135 件⇒160 件



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	公民館講座⇒年間 35 講座
	生涯学習講座ガイド⇒年 2 回、各 1,500 部作成
	俳句大会⇒ 年 2 回開催
	生涯学習講師人材バンクリスト⇒登録件数 180 件

重点目標及び主な事業	青少年の健全な育成を目的とし、地域の青少年の健全育成に対する意識を高め、青少年を取り巻く環境をより良いものとする。
	青少年育成推進委員会を構成する3部会(家庭教育部会・地域活動部会・広報活動部会)による各種の活動、家庭教育推進事業、家庭教育相談、健全育成作文コンクール、非行防止パトロール、市民運動地域推進員による啓発運動

課題・問題点	・市民運動による啓発がより効果的になされる方法の検討 ・家庭教育推進事業による保護者の家庭教育力強化
--------	---



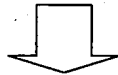
H24年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・市民運動地域推進員活動⇒年7回活動
		・家庭教育推進事業⇒34教室実施
		・子どもセンターニュース発行⇒市内保育園・幼稚園・小中学校及び公共施設配布(6,800枚)
		・青少年健全育成作文コンクール⇒市内中学校生徒参加449人応募(昨年度105人)
		・非行防止パトロール及び市内巡視の実施⇒年7回



H25年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○	・市民運動地域推進員活動⇒コンビニ・ネットカフェ等より広範囲で実施
	○	・家庭教育推進事業⇒36教室実施予定
		・子どもセンターニュース発行⇒市内保育園・幼稚園・小中学校及び公共施設配布
	○	・青少年健全育成作文コンクール⇒長中、南中に新規で北中学校生徒参加(470人応募目標)
		・非行防止パトロール及び市内巡視の実施⇒年7回

重点目標及び主な事業	市民共有の貴重な歴史的遺産である文化財の保護及び適切な保存と活用
	文化財保護意識の啓発や、各保存団体による無形民俗文化財の継承や保護活動への助力、古戦場をアピールする「長久手古戦場桜まつり」、色金山歴史公園での茶会の開催、市内史跡めぐり講座の開講、文化財の周知・広報

課題・問題点	・郷土資料室、古戦場公園の整備 ・史跡の維持管理について、毎年多額の費用を要している。 ・文化財を保護・保存する施設整備
--------	--



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・長久手古戦場桜まつり⇒市内各種団体との協賛により開催： 5 団体
		・色金山茶会⇒来場者 2 3 2 人
		・市内史跡めぐり講座⇒全 2 回、受講者 1 8 人
		・郷土資料室市指定文化財記念展⇒来場者 1, 9 2 8 人



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		・長久手古戦場桜まつり⇒市内各種団体が実行委員会を 形成し開催：1 3 団体
		・色金山茶会⇒年 1 回
		・市内史跡めぐり講座⇒全 2 回
	○	・民具、古文書等歴史資料整理⇒9, 0 0 0 点

重点目標及び主な事業	生涯スポーツの推進
	総合型地域スポーツクラブ事業、自然歩道を歩こう、新春マラソン大会、社会体育団体補助、体育施設の維持管理など

課題・問題点	・総合型地域スポーツクラブの本来目標に即した事業展開、自立に向けての将来構想の確立。 ・老朽化が進み頻繁に修繕が伴う体育施設の維持管理を限られた予算内で実施する必要があること。
--------	---



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	○	総合型地域スポーツクラブを設立し、34のスポーツ教室を計画し、32教室を実施。会員対象のトレーニング講習会を1回開催。
		自然歩道を歩こうを春（参加 68 人）・秋（同 59 人）の各 1 回開催。
		新春マラソン大会を開催。（参加 1,648 人）
		スポーツの祭典、校区運動会（6 校）に対し補助金交付。



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		総合型地域スポーツクラブで40のスポーツクラブを実施予定。
		自然歩道を歩こうを春・秋の各 1 回開催。
		新春マラソン大会を開催。
		スポーツの祭典、校区運動会（6 校）に対し補助金交付。

重点目標及び主な事業	図書館運営業務
	・図書貸出事業、図書館資料の購入、受入。 ・図書館見学、職場体験、実習生受入。 ・地域の図書館との連携、リサイクル市。 ・子ども読書活動推進計画策定。

課題・問題点	・子ども読書活動推進計画の計画実施に伴う職員体制。 ・施設修繕業務の増加。
--------	--



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・入館者数 3 3 2, 2 0 9 人、貸出総数 4 5 3, 3 2 8 点 (市民一人あたりの貸出点数 8. 8 点)
		・図書資料 1 1, 3 0 6 冊と AV 資料 2 0 点を購入
		・Web 予約 9, 0 2 9 件
		・小学 3 年生の図書館見学 5 9 4 名⇒各学校年 1 回
		・中学 2 年生職場体験⇒各学校年 1 回 (計 8 名)
		・大学 3 年生実習生⇒年 1 回 (計 2 名)
		・リサイクル市にて除籍本 2, 7 4 3 冊配布 ⇒年 1 回
		・図書館連携による健康支援事業 ⇒年 3 回会議開催
	○	・子ども読書活動推進計画を策定 ⇒委員会 3 回開催
	○	・雑誌スポンサー制度要綱制定 ⇒H 2 5. 4. 1 施行
	○	・外壁改修工事及び館内塗装等修繕工事の実施 ⇒外壁の約 2 割が工事対象



25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○	・南側駐車場の新規借地契約及び工事の実施 ⇒1, 008m ²
	○	・雑誌スポンサー制度募集開始
		・小学 3 年生の図書館見学 ⇒各学校年 1 回
		・中学 2 年生職場体験 ⇒各学校年 1 回
		・大学 3 年生実習生 ⇒年 1 回
		・リサイクル市にて除籍本配布 ⇒年 1 回
		・図書館連携による健康支援事業

重点目標及び主な事業	講座等企画事業
	・おはなし会 ・図書館講座、児童書講演会。 ・現代美術展（ビブリオテカアルテ）、中学生美術展。 ・閲覧室企画展示。

課題・問題点	・行事及び企画展示実施のための司書資格者職員の確保。 ・おはなし会等ボランティアの育成及び新規確保。
--------	---



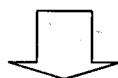
H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・おはなし会開催⇒年 58 回(月平均5回)／参加者 3,127 名
		・子ども読書の日「いちにちおはなし会」 ⇒年 1 回／参加者 195 名
		・図書館講座（図書修理ボランティア養成講座） ⇒講師都合のため実施不可
		・児童書講演会 ⇒年 1 回／参加者 76 名
		・現代美術展（ビブリオテカアルテ） ⇒絵画作品 11 点／版画作品 20 点（年 1 回ずつ開催）
		・中学生美術展 ⇒年 1 回／作品 66 点
		・大学連携事業（愛知淑徳大学） ⇒年 2 回
		・閲覧室企画展示 ⇒年 17 回展示



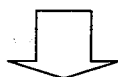
25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		・おはなし会開催⇒月平均 5 回
		・子ども読書の日「いちにちおはなし会」 ⇒年 1 回
		・図書館講座 ⇒年 1 回
		・児童書講演会 ⇒年 1 回
	○	・現代美術展（ビブリオテカアルテ） ⇒年 1 回
		・中学生美術展 ⇒年 1 回
		・大学連携事業（愛知淑徳大学） ⇒年 1 回
		・閲覧室企画展示 ⇒随時
	○	・子ども読書活動推進計画策定に伴う新事業としてブック スタート事業の実施⇒毎月 2 回

重点目標及び主な事業	学校連携事業
	・おはなし会 ・団体貸出

課題・問題点	・小中学校の児童生徒数の増加に伴う司書職員数の不足。 ・団体貸出要望に対応するための図書資料費確保。 ・ボランティアの育成及び新規確保。
--------	--



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・おはなし会（読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング等） ⇒年 6 3 0 回
		・子ども読書の日「いちにちおはなし会」 ⇒年 1 回／参加者 1 9 5 名
		・団体貸出 ⇒1 0, 2 6 8 冊



25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○	・中学校 1 校新設に伴う連携司書嘱託職員 1 名採用 ⇒嘱託職員 2 名から 3 名へ増
	○	・おはなし会（読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング等） ⇒中学校 1 校増加
		・子ども読書の日「いちにちおはなし会」 ⇒年 1 回
	○	・団体貸出 ⇒中学校 1 校増加
	○	・子ども読書活動推進計画策定に伴う事業として中央図書館での小学生向けおはなし会実施回数増加 ⇒年 4 回

重点目標及び主な事業	普及・啓発事業
	・文化芸術にふれる機会を持ってもらうため、親子向けの公演や、気軽に足を運べるコンサートを行う。また、市内各地に出張コンサートなどに出かけ文化芸術に親しみを持ってもらう。

課題・問題点	・普及すべき年齢層（中学生、高校生）は情報ラウンジ、アトリウムといった場所には来館しているが、集客に結びつかないのが現状である。
--------	--



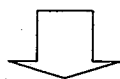
H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	・アートデリバリーは、創造スタッフ（文化の家契約アーティスト）を中心に、来館することが困難な高齢者、未就学児を対象に施設に出向きミニコンサートを7回実施。参加者 555 名。
	・ガレリアコンサートは、文化の家の北ガレリア、アトリウムなどを利用して、誰もが楽しめる無料のミニコンサートを17回開催。参加者 2,150 名。
	・子ども向けの舞台公演を8回開催。参加者 2,555 名。
	・であーとは、小学校2校、中学校2校へ出向いた。生の演奏・楽器体験コーナー・給食の時間に全学年の教室をまわるゲリラ演奏も行った。
	・気軽に参加できる音楽事業を8回開催。



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	・アートデリバリーは、月に1回程度の定期的な開催。
	・上半期のガレリアコンサートは毎月1回開催。 下半期のガレリアコンサートは毎月1から2回開催。
	・子ども向け鑑賞事業は音楽3回・演劇3回を開催。
	○ ・小学生を対象に音楽鑑賞の招待公演を開催。 ○ ・演劇によるアウトリーチを小学校に出向き開催。
	○ ・であーとは出向く学校数の増加。（中学校は3校予定）
	・気軽に参加できる音楽事業（クラシック、ジャズ）を8回開催。

重点目標及び主な事業	鑑賞・体験事業
	・ 市民ニーズを分析・把握することにより、講座、舞台芸術鑑賞、展示など、質の高いプログラムを編成し、市民が芸術にふれ、楽しむ機会を設定することにより、市民自らの文化芸術活動をはじめ多様な文化活動を実現する。

課題・問題点	・ 幅広いジャンルで鑑賞する機会を行い、事業によっては集客に苦勞する事業があるため多様な広報手段が求められる。
--------	---



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	○	・ 幅広いジャンルの舞台公演を行った。(39 事業 60 公演)
		・ 舞台公演入場・参加者数は 15,867 人。
		・ 参加型のイベントである「おんぱく」はボランティアスタッフが多数参加し、家族連れを中心に盛況であった。
	○	・ 映像鑑賞会は、鑑賞者は年間 1,367 名。⇒月 1 回



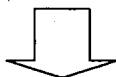
H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○	・ 長久手市文化マスタープランに沿った事業で各種多様なジャンルの舞台公演を予定。(33 事業 41 公演)
	○	・ 映像鑑賞会は、有料公演の回数を増加する。

重点目標及び主な事業	育成事業
	・経験者を対象に、さらなる技術向上を図るため講座・レッスンを開催するとともに、創造スタッフによる作品創造活動と発表活動を支援するなど、地域の文化活動の担い手を育成し、充実した地域文化を育む。

課題・問題点	・需要の高い講座は継続受講が困難になるため、講座数を増やしたいが部屋数、講師確保など、重要と供給が整えられない。
--------	--



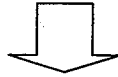
H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)	・クラシックバレエ、フルート、子ども美術など創造スタッフを中心とした講師による長期 17 講座 324 人、短期 24 講座 580 人を開講。
	・講座発表会では、ヴァイオリン講座、クラシックバレエ講座が合同で舞台発表するなど講座間の交流も行われたほか、戯曲セミナーは、受講者が1年間で書き上げた台本の中から優秀作品を選び舞台公演を行うなど演劇活動の素地づくりに寄与した。



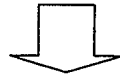
H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○	・アートスクール講座は、デッサン＋アート（土曜開講）、絵本の講座を新規に開講。⇒デッサンは学生等に基礎を学んでもらうため開講。
		・講座発表会・戯曲セミナー上演会は、一年の講座生の成果の場として、今年度も実施する。

重点目標及び主な事業	自主創造活動事業
	・市劇団や市合唱団など地域住民が主体となって作り上げる舞台公演、芸術家による芸術作品の創作など、文化の家独自の企画による創造活動を展開する。

課題・問題点	・文化の家フェスティバルでは、団体ごとで集客にバラつきがあるため、広報活動の仕方について検討していく必要がある。
--------	--



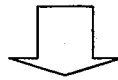
H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・文化の家フェスティバル、バンドフェスティバルは利用者を対象に日頃の練習成果の発表を行い、練習室とホールを併せ持つ文化の家ならではの取り組みができた。
		・市合唱団は、自立に向けた運営等・地域交流・本公演のチケット販売などを行いました。公演入場者456人
		・市劇団は、本公演とは別に、地域演劇祭に劇団員作演出で公演を行った。本公演入場者390人



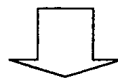
H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)	○	・今年度から、出演団体で実行委員会形式で行われる文化の家フェスティバル・バンドフェスティバルを隔年で行っていく。
	○	・市劇団の活動の場をひろげ、老人・福祉施設などへ出向き交流を進めていく。

重点目標及び主な事業	提携事業
	・プロフェッショナル・アマチュアを問わず、地域の演奏団体や劇団など、芸術家、芸術団体、芸術系大学等の教育機関と連携し、公演や創造活動の支援を行う。

課題・問題点	・愛知県立芸術大学との提携事業が増加し、事務量が過大となっているため、提携内容を合理化する必要性があり、次年度以降進めていくこととする。
--------	--



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・愛知県立芸術大学と提携し、オペラ制作、室内楽演奏会、チャリティーコンサート、現代アート企画展など大学の持つ人材を活用し芸術活動の発信拠点となった。
		・長久手フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会を共催し、地域住民にオーケストラの重厚な音楽を低価格で気軽に鑑賞する機会を提供できた。



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		・愛知県立芸術大学と提携し、コンサートやアート企画展など、これからの芸術家の活動の発信拠点として行う。また、今後のオペラ事業の進め方も検討していく。
		・長久手フィルハーモニー管弦楽団や津軽三味線演奏会など自主事業ではあまり取り組まない公演を行い、地域住民に鑑賞の機会を増やす。
	○	・今年度から市合唱団が、指導料や公演料など部分的に自主運営活動を進める。

重点目標及び主な事業	住民参画事業 ・住民が文化の家に親しみを持ち、それぞれの関心や意欲に応じて、鑑賞・企画・運営支援・PR 支援など自分にあった参加ができるよう、主体的に参画する機会を設け、身近な住民参画の機会を充実するとともに住民参画組織の運営を支援する。
------------	---

課題・問題点	・フレンズ企画での集客数を増やす更なる広報活動に努めていく必要がある。この事業の存在を知っていただく広報活動が必要である。 ・アートフェスティバルでのアトリエギャラリー開放では、期間中に毎日開催できない場所もあり、できるだけ開催してもらえよう進めていく必要がある。
--------	---



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・住民が企画した事業を4回開催した。フレンズ企画はフレンズ会員（文化の家友の会）が演奏者と直接交渉し公演につなぐほか、広報も独自に行うなど運営もスムーズにできるまで成長した。
		・主婦等で構成するシサイ事業倶楽部のコンサート公演では、事業の進め方を研修して、一から進めて支援した。心配した集客も広報活動にちからを入れて、ほぼ満席となり、赤字にならず公演できた。
	○	・ながくてアートフェスティバルは、市内のギャラリー・アトリエ、主に市内在住の芸術家および学生の参加で市内各所に芸術作品を設置し、地域住民が気軽に鑑賞できる場と交流の場を設けることができた。（10/21～11/4,16 日間） ・アトリエマーケット開催（10/20,21 2日間）



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		・住民で構成されるフレンズ企画を支援する。
	○	・住民参画交流会議「夢さがし★発見★実現★文化の家プロジェクト」（交流、企画、評価）を進めていく。
		・市民・美術作家からなるながくてアートフェスティバル実行委員会による企画運営を進めていく。

様式

担当課

給食センター

シートNo. 1

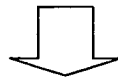
重点目標及び主な事業

給食調理事業

安心で安全な給食の提供を通して食育と地産地消の推進を図る。

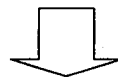
課題・問題点

- ・適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図る
- ・平成25年度に向けて給食費の改定と市補助の継続
- ・市内産農産物の使用量の拡大
- ・臨職調理員の安定確保と個々の経験・技術の向上



H24年度の事業成果
(改善・新規は○印)

- ・給食実施人数 6,335 人（内訳：小学校 3,769 人、中学校 1,556 人、保育所 960 人、その他 50 人）
- ・総実施食数 1,200,286 食／231 日（H23 実績 1,173,743 食／227 日）
- ・アレルギー対応給食（乳、卵の除去食）実施人数
⇒小中学校： 24 人（乳 10 人、卵 24 人）
⇒保育所： 43 人（乳 20 人、卵 37 人）
- ・情報提供 ⇒アレルギーの詳細な献立資料の配布
- ・栄養指導 ⇒小中学校 85 回、保育所 33 回実施
- ・ホームページの更新 ⇒毎月、「ながくての給食」の発行
⇒学期 1 回
- ・試食会等（施設見学会含む）の実施
⇒PTA 関係 6 回（於：各小学校、301 人）
⇒給食センター関係 4 回（給食センター主催 2 回（53 人）、他団体要請 4 回（71 人））
- 給食食材、食器等の衛生管理検査 ⇒59 件
- 給食食材の放射能検査 ⇒16 品目
- 給食費の改定（平成 25 年度から）：小学校 205 円→220 円、中学校 235 円→260 円の増額、市補助 20 円の継続
- ・市内産農産物使用実績 5,387kg（H23 実績 6,248kg）
- ・臨職調理員の雇用状況：平成 24 年度末実雇用数 33 人（年度内新規雇用 7 人、年度内退職 14 人）



H25年度の事業計画

- ・給食実施人数 6,644 人（内訳：小学校 3,894 人、中学校

(改善・新規は○印)		1,604 人、保育所 1,091 人、その他 55 人) ・総実施食数 1,284,010 食／235 日
		・アレルギー対応給食（乳、卵の除去食）の継続 ・情報提供 ⇒アレルギーの詳細な献立資料の配布
	○	・セレクト給食 ⇒学期 1 回
		・栄養指導 ⇒小中学校 90 回、保育所 35 回程度 ・ホームページの更新 ⇒毎月、「ながくての給食」 ・試食会等（施設見学会含む）の実施 ⇒PTA 関係 6 回（於：各小学校） ⇒給食センター関係（給食センター主催 3 回、他団体の要請は積極的に受ける）
		・給食食材、食器等の衛生管理検査 ⇒必要件数 ・給食食材の放射能検査の実施 ⇒随時
		・市内農産物の使用拡大 ⇒6,000kg
	○	・調理従事者人数 40 人の安定確保と経験・技術の向上 ・調理業務の民間委託への移行時期の検討

重点目標及び主な事業	給食センター管理業務
	給食業務を円滑に行うため、施設及び設備を適切に維持管理する。

課題・問題点	・施設及び設備の安定稼働の確立 ・経費（光熱水費、委託料）の節減 ・オール電化メリットの活用
--------	--



H24 年度の事業成果 (改善・新規は○印)		・施設及び設備の安定稼働 ⇒日常点検の励行、専門業者による保守点検の実施 ⇒機器等の適切運転及び湯、蒸気の必要量の把握
	○	・施設及び設備の不具合等の把握 ⇒関係業者に依頼し修理及び改善を図った
	○	・長期継続契約制度による委託契約金額の削減 ⇒厨房排水除害施設保守点検委託始め 5 件契約締結
	○	・オール電化による施設運営 ⇒安全で容易な熱源管理の実施 ⇒深夜電力の有効活用 ⇒調理場内の良好な環境（温度 25℃、湿度 80%以下）の保持



H25 年度の事業計画 (改善・新規は○印)		・施設及び設備の安定稼働 ⇒日常点検の励行、専門業者による保守点検の実施 ⇒効率的な設備運転の実現
	○	・電気供給契約の見直しによる電気料金の削減 ⇒契約電力（デマンド）の見直し ⇒特定規模電気事業者（PPS）との契約の検討
	○	・長期継続契約制度による委託契約金額の削減 ⇒消防用設備保守点検委託始め 3 件契約締結
		・オール電化による施設運営 ⇒安全で容易な熱源管理の継続 ⇒深夜電力の有効活用 ⇒調理場内の良好な環境の保持